

早稲田大学 教育学部 古典 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	国語 60分
特徴・その他	昨年は現漢融合問題だったが、今年は古漢融合で、漢文は日本漢文（藤原定家の『詠歌大概』）が出題された。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
(三)	古文 『毎月抄』 (藤原定家の歌論)	問十四 係り結びに注意して、助動詞を活用させる、ごく基本的な文法問題。 問十五 出題ミス 問十六 古今和歌集仮名序の著者名を問う、文学史の基本問題。	易  易
	漢文 『詠歌大概』 (藤原定家の歌論)	問十七 内容合致問題。さほど紛らわしい選択肢もなく、落ち着いて本文と選択肢を見比べれば、決して難しくはない。 問十八 標準的な解釈問題。呼応の副詞を押さえた上で、文脈のチェックをすればよい。 問十九 ここでは「秀句」が否定的に述べられていることに気がついたら、「自然に何となくよみ出させる（秀句）」はまだよいが、「いかがせむととかくたしなみよめる秀句」は実に見苦しい、という文脈を押さえれば正解が選べたはず。 問二十 〈 〉内の筆者自身の説明を読んで解く問題。 問二十一 返り点の問題。漢文の基本的な語順を知っていればさほど難しくはない。 問二十二 内容合致問題。本文を正確に読む力が求められている。	標準  標準  やや難  標準  標準  やや難

## 〔総合コメント〕

設問自体は難しくないのだが、歌論を読み慣れていない受験生には内容がつかみにくかったと思われる。単語・文法・読解力を身につけるとともに、様々なジャンル・時代の文章に慣れておく必要がある。

正解のない問十五に時間を取られてしまったら大変なマイナスとなる。もちろん出題ミスはあってはならないことだが、現実にはしばしばあるのも事実。この大学を狙うほどの受験生なら、単純な時間配分だけでなく、問題を見抜く目も養っておきたい。